事例No.	1906
公表年度	R4
団体の属性	一部事務組合等
団体名	愛知県西知多医療厚生組合

事例区分	公営企業

タグ	・病院事業 ・組織改革 ・人材確保・育成

事例種類	広域化等

事例内容・タイトル

市立病院間の再編

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【愛知県西知多医療厚生組合】
市立病院間の再編

広域化等 **病院事業**

愛知県西知多医療厚生組合（公立西知多総合病院）

● 取組の概要

医師不足等の課題を解決し、知多半島北西部地域の中核病院として地域医療を担うため、東海市、知多市の病院事業を統合した。

◆総事業費　建設費148億円、医療機器購入費37億円、医療情報システム導入費12億円、什器備品等購入費2億円

◆背景

- 知多半島医療圏北西部地域においては、東海市民病院及び知多市民病院が中核病院として地域医療を担っていたが、深刻な医師不足等により、地域医療のニーズに応えることが困難な状況となっていた。
- この課題を解決するため、地域医療の整備と病院連携について協議・検討を進めた結果、両市民病院の経営や施設を完全に統合することとした。

◆具体的内容

- 東海市民病院、東海市民病院分院、知多市民病院の両市における病院事業を統合し、西知多医療厚生組合（一部事務組合）が経営主体となり、運営を開始した。
- 知多半島医療圏北西部地域における地域完結型医療体制の中核病院としての役割を果たせる規模と機能、交通の利便性を確保するため、新病院を建設した。

◆効果

- 病院統合により、医師不足が改善された。平成26年度　東海：26人　知多：39人　合計：65人　→　平成27年度　西知多：70人　→　令和4年度　西知多：86人
- 医師不足の改善により、充実した急性期医療の提供が可能となり、入院患者数が増加した。平成26年度　東海：93人/日　知多：170人/日　合計：263人/日　→　平成27年度　西知多：288人/日　→　令和3年度　319人/日

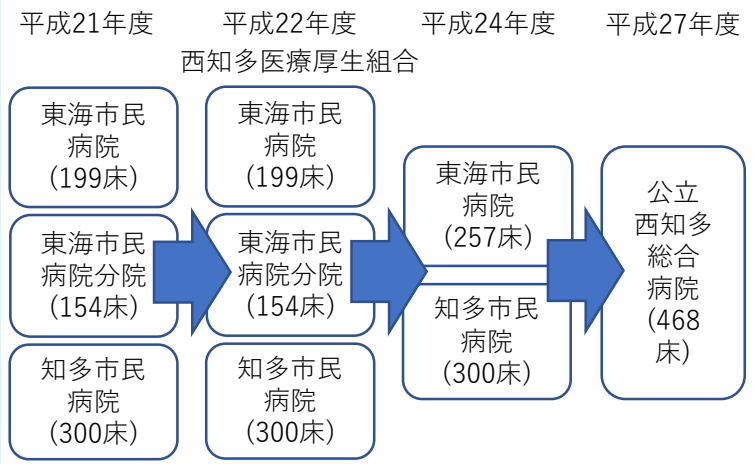
● 取組のポイント

- 両市民病院において、病院運営への影響を少なくするため、新病院建設や開院までの調整等を行う事務担当部署を別に設置した。
- 新病院には、統合する両市民病院の職員が多く移行することから、医療機能、風土が異なるため、合同医局会等、各部門において、事前に人事交流等を実施した。
- 新病院建設がスムーズに進むよう、県から職員（医務国保課経験者）1名の派遣（平成25～26年度）を受け、関係各所への連絡、相談等を実施した。
- 新病院開院アドバイザー（県病院事業庁長、関係大学病院病院長）を依頼し、各大学病院等の医師の相談や新病院開院に向けてのアドバイスをいただいた。

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　198,835人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　89.33km²（令和4年1月1日時点）
- 許可病床　468床（令和3年度決算）

統合再編イメージ



● 取組のスケジュール

- 平成22年4月から西知多医療厚生組合において病院事業の運営開始。
- 平成25年7月に新病院建設工事着工。
- 平成27年5月に公立西知多総合病院開院。

● 今後の展望

- 高度急性期・急性期を担っていくための診療体制の強化に加え、今後不足することが見込まれている回復期や慢性期の機能については、地域の医療機関との連携により、対応していく。
- 非稼働病床（45床）の稼働に向け、引き続き医療従事者の確保に努める。